

文化資料室ニュース

第7号 2009年3月・札幌市文化資料室発行

所蔵資料紹介

明治中期のトイレの整備資料

(文化資料室 榎本洋介)

今回紹介する資料は、文化資料室が所蔵する『大村耕太郎資料』中の表紙に「土地建物売買ノ証」(仮番号 OOM-56)と



ある簿冊中の、明治28年トイレを改造することについての資料である。家屋所有者である大村耕太郎がトイレ改業者の畠山魏と吉田善太郎と結んだ契約書である。

札幌のインフラ整備は、明治2年に街づくりを開始したときから考えられていた。大友堀を挟む形で官邸や民家が並ぶ計画であったことから、大友堀を、生活排水を放流する下水道として利用する構想であったと理解される。その後、明治4年から碁盤の目状の区画形成の際も一区画のまわりに側溝を開削していた。ところが、明治15年約9,000人であった札幌区(17年までは札幌市街地)の人口は、20年に13,534人、30年35,306人、40年66,193人と急増した。生活排水を放流するために、18年に西5丁目に開削した大下水(後に新川と呼ばれた)を皮切りに明治20年代に南北に数本の大下水が開削・整備された。トイレの整備に関する資料が今回紹介する契約書である。

この契約書「緒言」によると、人口増加によりトイレの汚水が地下に浸透し、井戸水を汚染して衛生上の問題を起こしているという。それまでのトイレは、無底器を据え付けていたとあるが、恐らく素掘りのままか、まわりが崩れないように枠だけを据えたものだったのであろう。汚水量の少ない時代は問題とならなかったが、人口が増えて汚水量が増えると地下浸透による井戸水汚染が問題となったのである。その対策として、トイレを改造して壺瓶を据え、定期的にくみ取ることにした。同じ状況は明治28年1月17日付北海道毎日新聞の記事「官舎便所を改良せんとす」が伝える。それによると、畠山・吉田が、トイレ改良を官舎からはじめるとして企画し、北海道庁へ出願した。1石入りの壺瓶で、総費用1ヶ月4円93銭であった。

契約書は、緒言のあと全6条の契約条項がある。第1条は、大村所有の大通西5丁目90番地と南1条西1丁目17番地の家屋に畠山・吉田で壺瓶を据え付けることの承諾。第2条は、費用は両名が支弁すること、契約期間中に凍結破損した際も両名が据え替える。第3条は、畠山・吉田が据付費用として契約時から7年間、両便を無代償にてくみ取る。ついでにゴミも運び去る。契約期限後は大村所有とする。第4条は、大村は現在および将来の借家人へこのことをしらせ他人にくみ取らせないようにする。第5条は、大村所有の家屋を売買・譲渡した場合は、その旨畠山・吉田に連絡すると共に買い主や譲渡人へ説明して両名と契約させるようにする。第6条は、第5条を怠り畠山・吉田に損失を与えるときは壺瓶の原価を支弁する。契約日は、明治28年2月3日である。2、3条を見ると実際の費用は、畠山・吉田が支弁し、くみ取り料も無代償であった。この後、札幌区では、明治32年にトイレや下水の構造などを規定した告諭を出して整備をすすめようとした。

畠山魏は、24年春から白石村87番地で土管や瓦を製造する工場を経営している。一方の吉田善太郎は、月寒・白石地区の開拓を手がけ、大谷地に吉田農場を開いた。この2人は、畠山が製産した壺瓶を各家に配備して、くみ取ったものを吉田農場で肥料として利用したと思われる。第3条の据付費用として7年間の無代償くみ取りと第4条の他人にくみ取らせないなど、壺瓶を据え付けることでそのくみ取りを独占する契約を結んだのである。むしろこの頃の農家には自分で壺瓶の費用を負担しても人肥を確保する必要があったのである。札幌周辺では、もとの地力に依存した無肥料耕作の継続による地力の消耗のために明治33年頃から過リン酸石灰などの化学肥料の使用が増すらしい(『北海道農業発達史I』1963年刊)。この契約書は、札幌周辺では既に明治20年代に、都市札幌の人糞を肥料として利用することが始まっていたことを示している。

人口急増による都市問題の発生とその対策を示す資料であるが、その対策が糞業や農業の肥料などに関係し、その時代の他産業の状況を物語る資料でもある。

旧豊水小学校に移り3年が経って…

平成18年4月、文化資料室は札幌市資料館(大通西13丁目)から旧豊水小学校(南8条西2丁目)に移転しました。時を同じくそれまで歴史とは疎遠だった私が、文化資料室で働く事になりました。最初の仕事は、引っ越し用に箱詰めされた資料の整理でした。1階の大きな書庫には通路が見えないほどの段ボールが積み上げられていました。番号別に分類・整理し直しながらの配架作業です。そのなかで未登録の書籍や未製本の資料も見付き、そうした段ボールを重ねると自分の身長ほどの高さにまで積み上がりました。それらを登録あるいは製本しながら配架し、新しく受け入れた書籍も加えながら、二の腕も引き締まるような肉体労働を繰り返しつつ1年がかりでようやく資料室の書庫らしくなりました。この引っ越しによって新たな検索可能資料も増えて、現在では約53,000点の刊行物等(写真・地図・絵はがき等を除く)が利用できるようになりました。

また相談室には文化資料室所蔵の図書、写真、地図、新聞スクラップ等、各種資料を探すため検索機が設置されています。資料館時代は作業の都合上新しい情報をすぐに反映させることが出来ませんでした。現在は毎月受け入れた書籍や寄贈写真をその都度検索機に入力出来るようになり、来館者の方にも随時御覧頂けるようになりました。図書、写真、地図、絵はがき等の資料種別の検索やキーワード検索も可能で、資料を探す上でかなり使いやすくなりました。

しかし、調べる内容により検索機だけではどの資料を見れば良いのか見当を付けるのが難しい場合もあります。そうした場合は私たち相談員が来館者からのお話で資料を探したり一緒に調べたりするのですが、様々な質問を受けることで自分自身も札幌の歴史をより深く学んでいく事ができました。この業務に携わる事で、自ら生まれ育った札幌という街の歴史を、自分がほとんど知らない事実に愕然とし、大雪が降り積もるこの街がどのように創られ、190万都市にまで発展してきたのかという事に改めて興味を抱くようになりました。

文化資料室では、市民の方などから各種資料を寄贈していただくことがあります。なかでも印象的だったものに古文書が貼ってある屏風というものがありました。当時は日記や帳簿として利用した和紙をさらに屏風の裏紙に使用していたようで和紙一枚を本当に大切に扱っていた事がうかがえます。その古文書を解読するために一枚一枚霧吹きで濡らして丁寧にはがしながら、当時この屏風をどのように作ったのかなどと想像すると、何だか当時と繋がっているような不思議な感覚に陥りました。このように自分の家で見つかった古い資料を文化資料室に寄贈して頂けることはとてもありがたいことだと思います。

札幌市資料館から移転して約3年が経ちますが、最初の頃は「移ったのを知らなくて前の場所に行ってしまったよ」「お散歩の途中で何の施設か分からなくてフラッと立ち寄ってみたの」という声もよく聞かれました。なかには「私ここの小学校の卒業生で懐かしくて」と立ち寄ってくださる方や、「静かで集中できる環境が好きなので平日に仕事が休みの時には来ます」と来てくださる方も。最近ではご先祖様のルーツを調べるために本州から来館される方もいらっしや、文化資料室が札幌の歴史を調べる施設として広く認知され始めてきているようで嬉しく思います。しかし、利用者の方からは資料の貸し出しや複写サービス、所蔵資料や目録のデジタル・アーカイブ化に関する要望が出ているほか、検索機でキーワード検索をして多数の資料がヒットした場合、ページ繰りが面倒であるとか、キーワードも登録されているとおりに入力しなければヒットしない等の問題点も指摘されています。このように利用者の方からの声を活かして、より良い施設になって行くためにはまだまだ改善すべき課題も残されています。より多くの方が気軽に来館でき、札幌の歴史を身近に感じられるような施設と言って頂けるように着実に成長していきたいと思っております。

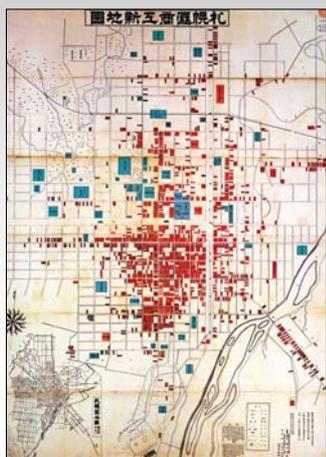
(郷土史相談員 宮本奈実)

歴史資料整理員だより②

地図目録整理を終えて

私は文化資料室で3年間、公文書・私文書の目録を作成してきました。ここでは今年度取り組んだ地図目録について振り返ってみたいと思います。

私が郷土史相談室の手伝いをした時、こんなことがありました。地図閲覧の依頼を受け、地図を探しましたが「地図がない…。」地図キャビネットには、明治1～19年、20～45年と、年代別に



札幌区商工新地図

分けて収蔵してありました。しかし引き出しの中に該当する地図番号のものはなく、1枚ずつ探しましたが見つかりません。結局その地図は、検索システム番号と地図登録番号の間にずれがあったため探すのに手間取ったのです。

今回、目録を作成した地図は、今まで未整理という訳ではなく、地図に登録番号だけは付いていました。しかし書誌項目（名称、著作の責任者、形態、出版事項、内容等）の統一、配架場所の確定がなく、全点調査によるデータの確認と配架場所の確定作業が必要でした。そこで、増補改訂版目録の作成にあたり第一に利用者の便宜を考慮し、新たな地図登録項目を追加の上、地図登録入力規則を作成しました。特に内容年（地図の内容が表現する元号・年次）の追加により年次不明地図のおおよその年次が推定でき、地図活用の幅が広がります。また、地域（札幌市全域など5区分）、形態（1枚物など6区分）、種類（地形図など9区分）の追加により、利用者の検索テーマに従って迅速に検索が出来るようになります。

その入力規則に従い、747枚の地図を1枚ずつ、明治時代から調査を始めました。名称のない地図にその内容から名称を付れたり、文字の解釈が困難な地図、備考内容の検討作業など、どれも地図について知識の少ない私の想像をはるかに越え

る作業でした。私は、明治時代の地図調査が終わった時、「まだ97枚が終っただけ。あと650枚もある。本当に大変な作業だ」と思いました。

大正、昭和時代では、都市計画のための調査地図も多数あり、大判サイズ、元図に調査項目を彩色したもの、書込み地図、年次不明の地図等も多くありました。そこで文化資料室独自の年次調査資料を作成し、建物（学校等）の位置、市電路線図、市域の変遷などから内容年を推定しました。

「昭和7年開業の三越はある？」、「市電の山鼻線はどこまで延長？」などと片手に年次調査資料を持ち、文字どおり地図上で東奔西走の毎日でした。

全ての調査とシステム入力終了後に校正作業に入りましたが、複本の整理、登録番号の統合、書誌項目間の調整でも、次々と気になる箇所が見つかり、日々修正に追われました。最後にキャビネット内の地図とデータを登録番号順に1枚1枚照合し、ようやく目録点数600点の地図目録が完成しました。

検索手段を用意することで、利用者が求める地図は、より早く、より正確に探し出せます。今回、地図のデータを整備し、冊子体目録を作成したことにより、双方の特性を活かした検索が可能になりました。地図の現物を見なくても内容や大きさがわかります。そして同定識別（他の資料と区別し、「ある特定の資料」を判断する手がかり）も簡単に出来るようになりました。この目録を多くの方々に利用していただき、今後の目録活用方法についても検討していきたいと思えます。

資料整理の作業は手間と時間がかかりその過程は、なかなか表に出ない仕事です。しかし、こつこつと根気よく続け、目録が出来上がると達成感を感じ、皆からの「お疲れ様」の言葉に喜びを感じます。そして、利用者のニーズにはできる限り応えたい。そのような気持ちが、また次の資料を整理しようという気持ちにつながります。

しかし残念ながら、私はこの3月で、任期満了を迎え文化資料室ともお別れします。

（歴史資料整理員 蔵満和泉）

刊 行 物
紹 介

札幌市文化資料室研究紀要

—公文書館への道—

3月末日 創刊!

写真に見る札幌

昔の写真から札幌の歴史をふり返ってみましょう。今号はテレビ塔の話題です。

この写真は、建設途中のテレビ塔（昭和31年撮影）です。現在は札幌市内観光名所の一つとして、観光客や市民の皆さんで賑わっていますが、当時はどのような様子だったのでしょうか。



昭和31年12月に北海道のテレビ放送が開始されたことに伴い、日本放送協会

はテレビの電波発・受信に必要な高い鉄塔を建設する計画を立てました。そして、展望台を併設するのがよいという意見から、観光施設としても利用しようという構想に発展し、いよいよ31年6月にテレビ塔の建設がスタート。施設全体の管理運営や観光サービスのため北海道観光事業株式会社が設立されたのは同年の11月でした。

テレビ塔の開業は32年8月24日（テレビ送信機能は44年に手稲山へ移転）。北海道新聞は約90mの展望台からの様子を「展望台から見下すと、地上の人間の顔などマッチ棒の頭くらいしかない。それがチョコチョコとマッチ箱くらいのバスに乗ったり、犬小屋くらいのオフィスに

出入りするのがよく見える」（8月26日）と伝えていました。今でも展望台には望遠鏡が設置されていますが、当時は10円で1分半使用できる仕組みで、連日順番待ちのため長蛇の列ができたそうです。

驚いたのは屋上にプラネタリウムが設置されていたこと。32年12月、東京、大阪に次いで全国で3番目に開場したプラネタリウムは、営業開始から33年3月末まで約3万人が入場しました。しかし、一回の収容人数が少なく回転率が悪かったこと、37年に機器が破壊される被害を受けたこと等から業務を廃止しました。他にも、映画劇場、遊戯場「子供の国」、今ではおなじみの電光時計は36年に点灯開始、大気汚染観測のための粉じん捕集器が取り付けられる等、時代のニーズに合わせた変化を感じます。最近では平成18年に開始した、塔体西面のLEDによるイルミネーションが私たちの目を楽しませてくれています。

現在、平成19年の開業50年を契機に、老朽化などの理由により同年7月、新「さっぽろテレビ塔」建設準備室が設置され、その検討がすすめられているということです。

（参考：さっぽろテレビ塔ホームページ、『札幌テレビ塔20年史』、北海道新聞）

文化資料室 利用のご案内

- 開館時間■ 8:45~17:15 ■入館料■ 無料
 - 休館日■ 土・日・祝日・年末年始(12月29日から1月3日)
 - 郷土史相談室・札幌の歴史展示室がご利用になれます■
 - ご来館の際は公共交通機関でお越しください■
- 交通アクセス／東豊線「豊水すすきの」駅下車6・7番出口から徒歩3分、
または南北線「中島公園」駅下車1・2番出口から徒歩5分



文化資料室ニュース —— 第7号・2009年3月

発行 —— 札幌市文化資料室 〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目

Tel・文化資料室事務室 011-521-0205, 郷土史相談室 011-521-0207 Fax・011-521-0210

E-mail・shiryoshitsu@city.sapporo.jp URL・http://www.city.sapporo.jp/bunkashiryo/